

平成 28 年度 第 2 回 仙台市障害者就労支援センター運営会議報告書

- 1 日時 平成 29 年 2 月 21 日 (火) 18 : 00 ~ 20 : 00
- 2 場所 仙台市障害者就労支援センター (以下「センターとする。」)
- 3 出席者 21 名 (運営委員 6 名, オブザーバー 1 名, 法人 1 名, センター 11 名)
[運営委員] 50 音順
遠藤 誠一氏 (宮城県立名取支援学校 進路指導部長)
小幡 敏昭氏 (宮城障害者職業センター 所長)
日下部 直憲氏 (株式会社清月記 商品管理部課長)
白木 福次郎氏 (NPO 法人ほっぷの森 理事長)
西田 有吾氏 (仙台市自閉症相談センター 主任相談員)
細谷 由紀子氏 (仙台メンタルヘルスサービス サービス管理責任者)
[オブザーバー]
那須 義彦氏 (仙台市障害者支援課地域生活支援係 主査)
[法人本部]
阿部 一彦 (社会福祉法人仙台市障害者福祉協会会長)
[センター]
所長 小野寺 修一
次長 馬場 美和
支援員 (以下同) 丸山 毅, 遠藤 真理, 後藤 祐子, 赤井 静香,
渡邊 さゆり, 齋藤 涼平
ジョブコーチ (以下同) 平塚 将太郎, 松川 幸恵, 鈴木 香織
- 4 内容 報告および意見交換
(1) 報告・平成 28 年度事業の取り組み状況について
・ジョブコーチによる障害者雇用促進事業の取り組み状況について
(2) 意見交換「定着支援について～精神科医療と生活支援との連携～」

(以下、各委員からの意見要約)

1、事業報告

- ・事業が多岐に亘りボリュームも多い。年度ごとに重点を置いて取り組んでいるのであれば、重点項目に対しての実績を報告されると理解や提案がしやすい。
- ・ハローワーク等の相談件数はダントツ精神障害者が多いのに対し、センターは知的障害者の利用が精神障害者と同等にある。センターとしての役割がそこになるのかもしれない。
- ・就労実績の上がない就労移行支援事業所に対して重点的にセンターが相談に乗る等動いた方が効果的ではないか。

2、意見交換

- ・企業に就労後に問題が起きてから解決するのではなく、その前段階 (就労前) で出来る事があるのではないか。
- ・雇用したいという企業ニーズに応じていく上で、準備性を整えてから就労させるのは難しい時代になってきている。就労後も継続的に支援者が関われるかどうか問われており、雇用する側も送り出す支援者側も両者の (雇用・就労の) 基準にしていく必要がある。
- ・合理的配慮として、精神障害の特性として体力の低下や疲れやすさがあり、企業には短時間勤務から開始するなどの配慮や理解をもらえると定着しやすいのではないか。

3、その他

- 触法の障害者、若年性認知症の方に対する支援もネットワーク作りを含めて考えていく必要がある。
- 平成 28 年度は宮城県の雇用率がワースト 1 を脱却した。雇用率の数字だけが取り上げられるが、本社が宮城県以外にある企業であっても仙台市内で雇用される障害者が増える事は良い事ではないか。
- 支援者の人材育成についてはセンターだけの課題ではない。センターや他の就労移行支援事業所等で一緒に養成できるような仕組み作りができるとういのではないか。

以上

